



第29代扇田神明社宮司
長岡博司の歴史コラム

宮司 長岡博司が鎮座650年
を前に謎に満ちた歴史を紐
解きます

第29代扇田神明社宮司
長岡博司



◆品名：六角御神輿 一座（輿）

秋田藩主第十一代 佐竹義睦公 御寄付（嘉永五年八月十五日）

勘定奉行 大久保庄太 上納（嘉永五年八月十二日：惣御塗直二相成候）

このお神輿は、これまで、往時 佐竹義宣が水戸より秋田に国替えの際、八幡様を乗せて来た御神輿を下附（以下略）と、伝えられているものである。

来年、神明社鎮座650年祭を迎えるにあたり、改めて宝物調査をしていた平成29年（2017年）2月19日、御神輿の宮殿床板裏に墨書銘を発見した。この墨書銘は、前の墨書を削り取ったところに書いてあった。

◆神輿のサイズ（概略に要再確認）

台経：5尺6寸(168cm)

台輪（ダイワ）：2尺8寸(85cm)

板巾：5寸8分(18cm)

板厚：1寸3分(4cm)

総高：4尺6寸(139cm)

重量：役120kg（担ぎ棒2本は含まず）

担ぎ棒：12尺(364cm)

台輪下端から鳳凰頭頂6尺7寸(203cm)

蕨手経：6尺6寸(200cm)

◆重要なこと◆

①宮殿床板裏の墨書銘の嘉永5年（1852年）8月12日 惣御塗直二相成上納



②六面スタレ裏面にある墨書銘の嘉永5年（1852年）8月15日 義睦公御寄付 義掬代



で、加えて当時41歳の大館城代 義茂の直筆文書

「家督御礼出府記録 嘉永5年8月2～16日」（出典：巻紙19×250cm 秋田公文書館 AO-209-37）である。



第十八代義幹：寛政元年（1791年）2月12日－嘉永5年（1852年）正月27日：62歳

第十九代義茂：文化9年（1812年）11月11日－明治元年（1868年）7月8日：57歳（号：鶯齋）

当時は、江戸末期。今から165年前に扇田村から選ばれた白丁18人と役職者役10人が、秋田城で惣御塗直の御神輿拝領の分かる資料である。

※義揄（ぎゆ）：一乗院24世

また、平成29年（2017年）3月21日の再調査では、堂柱6本の最下部をつなぐ長押（なげし＝横木）と、台輪最下部の骨組木に墨書を確認しているが、特殊光線撮影による判読が望まれる。

更に、屋根頂部の鳳凰台座六角箱（高さ5寸、台経1尺、一辺5寸、板厚5分、中央開口穴経1寸）の内側に墨書を発見した。

▷内容

安政6（1859）年3月2日御ぬり直し、昭和21年7月10日塗修理記念

などの文字を確認（鳳凰：高さ16寸 幅21寸 体長23寸＝69.7cm）

御神輿の保存修理をする機会を得、棟持ち柱の背面などから、制作年代や関係した職人名らの判読を期待する次第である。

平成29年（2017年）4月23日（日） プレスリリース ひない鶏夢一座
座長 宮越 堯
扇田神明社

扇田神明社祭典のしおりより

第27代宮司 長岡孝氏 *明治28年（1895年）～平成3年（1991年）：97歳

亦、お祭りをにぎやかにするため、神輿渡御を計画し、其の旨藩主に願い出た処、往時佐竹藩が水戸より秋田に国替えの際、八幡様を乗せて来た神輿を下付する故、受取るに来る様とのことで郷中から十八人選らぶ事になり、左記の方々が選らばれたのです。

- 宮嶋家
- 麓家
- 大沢家
- 安原家
- 長岐三八郎家
- 荒谷家
- 佐々木多兵衛家
- 明石文治家
- 乳井助志郎家
- 安藤家
- 高橋伝八家
- 西嶋家

（不明の家も有ります）

白丁係のほかに白丁取締役、道中先導役、其の他諸役が十人位あった様です。

御神輿の宮殿床板裏面に筆墨（六角形 幅67cmに11名）
